

# 企業 NOW

## 天然銘木のツキ板で 高付加価値の空間を



ツキ板を張り付けたヘルメット



倉庫にストックされるツキ板



一枚一枚、丁寧に張り合わせていく

### 会社概要

- 社名 大和ツキ板産業株式会社
- 代表者 三好美寛社長
- 所在地 〒720-0004 福山市御幸町中津原1790-1 TEL (084)955・1877
- 設立 昭和50年2月
- 事業内容 天然銘木ツキ板の内装建材の製造販売
- 資本金 1000万円
- 従業員数 37人
- ホームページ <http://www.daiwa-tsukiita.co.jp>

という二つの特殊な塗装のための機械を導入し、微妙な濃淡も自在に表現する。静電塗装は文字通り静電気の力を利用。帯電した塗料が板に引き寄せられ、均一にムラなく塗ることができるとのこと。

工により微妙な配色変更の依頼にも対応できるし、こちらからもさまざまな提案ができる」と強調する。



静電塗装

「木は生きている。育った環境によって一つ一つ個性があるので、機械では不可能。木と対話をしながら、一枚一枚きれいに張ることが大事」。張り付けるには高い技術を要するといいい、現場では女性作業員の姿も多い。「きめ細かさや丁寧さ、忍耐を要する仕事。男性は飽きっぽいし、女

性の方が向いているのかも」と笑う。

今年掲げた目標は「挑む」。昨年は困難に正面から立ち向かう意味を込めて「臨む」としたが、今年は一歩踏み出し、果敢に挑戦していく方針を打ち出した。まずはその一環として、3月8日～11日(金)に東京ビッグサイトで開かれる大

「当社の未来を担う新しいビジネスの柱は、あるいはツキ板ではないかもしれない。だが、ここまで積み重ねてきた技術を捨てる理由はないし、さらに磨きを掛けていくつもり。顧客と常に真摯に向き合い、安心して製品を使ってもらえる会社でありたい」。本業に徹しながらも新たな可能性を模索し、攻めの姿勢を見せている。



薄くスライスされた木材

「ツキ板」という、紙のように薄くスライスした木の板をご存じだろうか。言葉にはあまりなじみがないが、生活に欠かせない存在。ホテルや公共施設で目にする木目模様の壁の多くには、厚さ0.2mmほどのツキ板が張り付けられているのだ。大和ツキ板産業株式の事務所や会議室に映える木目の壁も、やはりツキ板。木目模様のヘルメットまである。三好社長は「ごく薄いため、貼る・曲げる・切る・色を付けるといった加工が容易で、用途は幅広い」とアピールする。

「静電塗装」と「UV塗装」

二つの塗装技術が強み

他社との差別化を図る上で強みとなっているのが、自前で塗装を行っている点。「業者に依頼せず、自社でやっている会社は数少ない」という。

「ツキ板」という、紙のように薄くスライスした木の板をご存じだろうか。言葉にはあまりなじみがないが、生活に欠かせない存在。ホテルや公共施設で目にする木目模様の壁の多くには、厚さ0.2mmほどのツキ板が張り付けられているのだ。大和ツキ板産業株式の事務所や会議室に映える木目の壁も、やはりツキ板。木目模様のヘルメットまである。三好社長は「ごく薄いため、貼る・曲げる・切る・色を付けるといった加工が容易で、用途は幅広い」とアピールする。



大和ツキ板産業株式会社  
三好美寛 社長

が強まり、需要は減りつつある」。だが、「天然木材を使用したツキ板にしか出せない魅力がある」と商品に厚い信頼を寄せる。「人が集まる場所はそれだけストレスが発生しやすい。木には人に安らぎを与え、心を和ませる効果がある。それに木目模様は世界に一つで、同じ柄はない。光の加減によっても印象が変わるし、使われるほど味わいが増す、非常に面白い存在」

外国産からスギ・ヒノキ・ケヤキなどの国産材まで、原料となる樹種は一四〇種類をそろえる。製造工程では、ツキ板を合板などの下地材の寸法に合うように裁断。下地材にツキ板を張り付け、プレス加工を施した後、研磨していく。「木目が美しく見えるよう、正確にカットする。木目を合わせ、きれいにさせる工夫をしている」